

2010 Nov. 韋編 No.37

図書館のさらなる進化に 期待しています

豊橋語学教育研究室 胡麻本 明子

図書館職員時代からかれこれ何年になるのでしょうか？

この時代に身に付いたこと、新聞の書評欄・広告には必ず目を通す、いろんな書店に立ち寄り……などは私のその後の人生を大変豊かにしてくれました。また書物の大海原に漕ぎ出すさまざまな検索手段を学ぶこともでき、図書館の方角には足を向けて眠れない(?)……という思いでおります。

その後いくつかの職場を経験した後、この1月に豊橋語学教育研究室に人事異動となり、今度は視聴覚資料の収集・提供という業務を担うこととなってまた図書館時代の楽しさを思い出しています。

先日は上京のついでに今話題の丸善丸の内本店「松丸本舗」に行ってきました。最近の書店は皆さんご承知のように相当変貌をとげていますが、ここはまさに異次元の世界でした。誰かの頭脳を切り開いてみたら、なるほどこうなっていたのかと思われるコーナーです。

書棚は人生の鏡……自分の書棚は人には見せたくないが、人の書棚は覗いてみたい、そんなこともチラッと頭をかすめます。

ともあれ「書棚を編集するとは、世界を編集することである。」という松岡正剛氏の挑戦を皆さんもぜひ機会がありましたら堪能してみてください。

この丸善の大胆さの裏には、出版不況と電子書籍の大嵐のなかで「本屋は驚きを持って本と出会う場所であるべき」「本屋がつまらない場所になっていることが出版不況のひとつの原因」(2010/8/28 朝日新聞)という社長の強い認識があり、これは図書館にも私の新しい職場……LL自習室の運営にも同様なことが言えるのではないかと痛感させられました。

次元が違うかもしれませんが、あるコンビニでのスイーツ誕生秘話のドキュメンタリー番組をたまたま見たのですが、マンネリ化させないための営業努力に大変感動しました。

整然と並んだ図書や雑誌、静寂な環境……確かにそれは必要なことです。

そこに如何にプロとしての味付けをしていくのか……課題が少し見えてきたような気がしました。図書館もがんばれ!!